

第35回生駒市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和7年11月18日（火） 午前9時00分～午前10時40分

2 場 所 生駒市役所 4階 大会議室

3 協議事項

(1) 生駒市幼稚園再編にかかる基本方針（案）について

4 市側出席者

市 長 小 紫 雅 史

5 教育委員会側出席者

教育長	原 井 葉 子		
委 員（教育長職務代理者）	飯 島 敏 文	委 員	レイノルズあい
委 員	中 川 義 三	委 員	吉 尾 典 子

6 事務局職員出席者

教育部長	松 田 悟	教育部次長	南 口 嘉 子
教育指導課長	花 山 浩 一	幼保こども園課指導主事	長 崎 文
幼保こども園課指導主事	牧 野 由 美	こども園準備室長	澤 辺 誠
教育指導課課長補佐	中 田 博 久	教育政策室長	杉 山 史 哲
教育政策室（書記）	佐 竹 裕 介	教育政策室（書記）	前 田 絵三子

7 傍聴者 2名

午前9時00分 開会

○開会宣告

○市長挨拶

小紫市長：本日の議題は、生駒市の幼稚園の再編に係る基本方針についてということで、非常に難しい問題であり、担当者も苦慮しながら、関係者の声を聞きつつ調整しているところである。生駒市の教育の中で、幼稚園教育を誇りにしてきたので、このタイミングで方向性をしっかり示すために総合教育会議で議論できればと思う。

○協議事項

(1) 生駒市幼稚園再編にかかる基本方針（案）について

- ・生駒市幼稚園再編にかかる基本方針（案）第1章、第2章を澤辺こども園準備室長から説明【資料1】

飯島委員：高値低値について意味はわかるが、園によっては数倍の差がある。高値低値はそれぞれどんな基準で計算されたのか説明をされたい。

澤辺室長：低値予測は、あすか野幼稚園を例に説明すると、43ページ図2-4にある通園区域内の0歳から5歳の人口の将来推計をまず立てた。この人口の将来推計に対して、図2-3にある園児数の推移から、これまでこの通園区域の3歳から5歳の子どものうち何割が通っていたかの利用率を割合で算出した。利用数の割合と、各年度での減少率も計算した。人口の推移に利用率の減少をかけて算出した数値が低値予想であるが、その結果では極端な推計になるため、人口の将来推計のみを変動理由として推計した数値も高値予測として設定している。

小紫市長：女性の就業率の上昇の見込みもあるので、高値予測ほど入園児数は伸びないと思われる。高値予測よりは減少する見込みであるとは思いますが、上限値を示しておくのは大切なことである。低値予測は過去の推移からは予想が難しく、低値と高値の間で推移するようなイメージを持っていただくためにこのような表現になっていることをご理解いただきたい。ほとんどの園で数年前に策定した再編の基準にはあてはまっており、緊急的に再編を考えないといけないう数値になっている。

レイノルズ委員：令和2年に方向性を定めた時には、なばた、俵口の2園の園児数減が顕著だったように思うが、今はあすか野幼稚園の減少が目立つ。あすか野小学校はあまり減少していないのに、なぜあすか野幼稚園が減少しているのかを教えてください。アンケートで多く挙げられている給食や長時間保育といったニーズを近隣の私立幼稚園や保育園が満たせているためか。

澤辺室長：ご指摘の通り保育ニーズの高まりが大きな要因と考えている。また、駐車場を希望される方もアンケート結果に多く、それらを満たせていないのが理由かと考えている。

レイノルズ委員：再編の方向性として、他園との統合、幼稚園敷地内への保育園分園設置、推移を見ながら閉園の3つの選択肢があり、どの園をどの方法で再編すべきかを協議するのがこの場であると理解しているが、なばた幼稚園とあすか野幼稚園で方向性が異なるのなぜか。

澤辺室長：施設の耐用年数の違いが大きな要因である。なばた幼稚園は耐用年数に余裕があるが、あすか野幼稚園や俵口幼稚園については、今後継続して使用する場合には、建て替えが必須である。なばた幼稚園は近隣の保育園の稼働率が高く、保育ニーズへの対応が必要であることと、大規模宅地開発が近隣で進んでいることから、私立保育園の分園設置という方向性で考えている。

レイノルズ委員：なばた幼稚園では、駐車場や給食提供はどうなるのか。

澤辺室長：私立保育園に運営に入っていただくので、幼稚園児にも給食の提供を一緒にしていただくよう交渉をしようと考えている。駐車場については、現在、なばた幼稚園で合同授業を行っている壱分幼稚園の保護者の方の駐車場を確保しており、そのスペースを今後も活用できる見込みである。

レイノルズ委員：なばた幼稚園には給食室を設ける必要があるのでは。

澤辺室長：分園設置のプロポーザルの際に、給食室の設置を条件に事業者を募集する予定で検討している。

松田部長：分園であるので、本園からの配送という形でも対応できると考えている。

中川委員：なばた幼稚園については、壱分幼稚園の園児が通い始めてから雰囲気が変わって園児達が活動的になっている。また、先生についても人数が増えることで色々な子に適切な対応をしていただいているように感じる。なばた幼稚園の周辺を見ると非常に大規模な開発が見受けられ、将来的な人数の推計は困難である。多くの子どもといっしょに学べるように他の園を招き入れる方法はとてもいいと思う。プロポーザルの際にはきちんと選んでほしい。

吉尾委員：アンケート結果等、保護者のニーズを加味して検討すべきだと思う。ハード面での検討も大事だと思うが、子どもたちの就学前教育をどうすべきかということをしっかり考えたい。桜ヶ丘幼稚園について、ひがし保育園と統合し公私連携型を導入するならば、0歳児からの受け入れとなりどうなっていくのかをしっかりと見ていかないといけないと思っている。市の予算として公立で残すのは難しいと思われるが、現行の南こども園は理想的だと思っている。0歳から教育を見据えて保育をしている南こども園を理想のモデルとして研修等を実施し、教育の質を根付かせてほしい。

小紫市長：私立公立それぞれの強みがあるので、公私連携型になった際には良いところを吸収し高め合って、いい意味で差がなくなっていくような園の在り方を検

討していきたい。北部に公立の園がないのは長年の課題であるが、私立の園に生駒市教育委員会として力を入れてほしいことがあれば伝えていくのが大事。北部地域は供給が充実していることから、あすか野幼稚園に関しては閉園も検討していく必要があり、これを契機として、周辺の私立園とも話し合いながらどのような形の再編がふさわしいか検討していかないといけないと考えている。

南口次長：公立のよさを私立に伝えてほしいということについて、幼保こども園課の指導主事は巡回訪問や相談等で私立園ともつながりは持っており、今後も様々な方策で保育の質の向上に努めたいと考えている。

吉尾委員：公立幼稚園が積み重ねてきた就学前教育を根付かせてほしい。訪問や相談だけでなく、現場で活躍する先生の実践する姿や努力から保育はよりよくなっていくと思う。

小紫市長：現場の思いを伝えていただくことで、就学前教育の質の向上につながっていくと思う。公私連携型という形で基本はやっていきたいと思っているが、南こども園も大切なモデルとして、全園に行き渡るような仕組みをどう考えていくのかが幼稚園再編の一つの大きなポイントだと思う。

飯島委員：保護者向けのアンケートでは、現状の園に満足されており、存続の希望が多いように見受けられる。再編を検討する際には、保護者のニーズをどのように実現していくのかを提案できるようにすることが大事ではないか。そういった観点での評価や枠組みを作っていただけるとありがたい。

小紫市長：前回の再編の議論から子どもの数はさらに減っており、行政としてはこのタイミングで再編を検討せねばならないという、より強い決意を持って対応している。公立幼稚園の先生もすごく頑張っておられるし、地域の方も応援していただいております、なぜ再編するのかという思いを持たれるのは当然だと思う。そういった地域の方、保護者の方、先生方の思いをしっかりとくみ取りながら、現状の園の良い部分をどういう風に工夫して引き継いでいくかということは今後議論していきたい。

原井教育長：壱分幼稚園のこども園化の際に、「小学校との連携」「地域との連携」「特別支援に関する配慮」この３点をしっかり引き継いでほしいと要望を受けたことを覚えている。この３点については、教育委員会としては壱分こども園に限らず、大事にしていきながら運営していきたいと思っている。

レイノルズ委員：壱分幼稚園と桜ヶ丘幼稚園の方向性に違いがあれば教えてほしい。

澤辺室長：壱分こども園は公私連携幼保連携型認定こども園として民間事業者によって設置される予定であり、桜ヶ丘こども園についても同様に進めていきたいと考えている。

レイノルズ委員：どちらも０歳児からの受け入れが可能ということであれば、なばた幼稚園の近隣保育園の０歳児の定員が１００％を超えているという記載があるが、近

隣である壱分地域はどうか。壱分幼稚園が閉園となった際に、この地域の需要と供給のバランスがどうなるのかが気になった。また、なばた幼稚園について、単独でのこども園化は検討からはずれ、私立の分園化となっているが、それぞれ方向性が異なるのはなぜかご説明いただきたい。

松田部長：壱分こども園については160名の定員を見込んでいる。現状が幼稚園であるため、そこに保育ニーズの受け入れが増える形になる。なばた幼稚園については、周辺の保育施設が充実していることから、単独でこども園化をすると保育に関しては将来的に過剰供給になる見込みである。地域協議会からの意見書では、なばた幼稚園については幼稚園として存続、壱分幼稚園については早急なこども園化というニーズがあったため、それぞれ現状の検討内容となった。分園化となるとあくまで本園ではないので、3歳未満を対象として定員は20人程度になる。また、生駒市の待機児童については、0～2歳児がほとんどであり、その部分を解消したいと考えている。実際に何歳を受け入れるかについてはニーズを見た上で最終決定するが、0歳児を受け入れるとなると、大規模な改修が必要になる。民間事業者に分園を運営してもらうことで園児数が増え、多様な学びが実現できると考えている。

レイノルズ委員：定員数から考えると、かなり余剰スペースが生まれるのではないか。また、0～2歳児が3歳児になった時には、どちらの園に戻るのか。その場合、小学校区が異なる可能性があるとするれば、小学校との連携という部分での不安面が出てくるのではないか。定員や運営方法についてはかえって今決めすぎず、園児数の推移を見つつ今後もあり方を検討することは可能か。

松田部長：なばた幼稚園の子どもたちの学びをどうしていくかということは、保護者の方や地域の方の力を借りながら、色々な方向性を探りながら検討していく必要があると考えている。

小紫市長：なばた幼稚園は大規模開発があるため、今後の人口動態が読みにくいとはいえ、幼稚園に対するニーズが増加する見込みはそれほどないと想定される。北部と比べると供給過多というほどでもない。より良い形で就学前教育の場になるよう弾力性を持たせた運用だとうご理解いただきたい。施設の活用方法については、今後も運用方法を地域と議論していく必要があると考えている。

吉尾委員：幼稚園のニーズが減少しているのは明らかであり、こども園化が大事だと思う。現時点で、来年度の公立幼稚園の入園児数がわかっていれば教えてほしい。

牧野指導主事：令和8年度の願書受付は終了しており、他園との併願も含めての数となるが、あすか野幼稚園3名、俵口幼稚園16名、生駒台幼稚園で18名、桜ヶ丘幼稚園で14名、認定こども園生駒幼稚園で30名、なばた幼稚園で16名、壱分幼稚園で17名、南幼稚園で29名となっている。

小紫市長：最終的にどれくらいの人数が入ってくるか見込みがわかれば教えていただき

たい。

澤辺室長：他園併願の方が、認定こども園生駒幼稚園で6名、なばた幼稚園で8名、壱分幼稚園で7名、南幼稚園で4名おられる。

小紫市長：それ以外の園は大体この人数が入ってくるという見込みなのか。大事な数字なのでまた精査いただきたい。それでは続いて第3章について、事務局からご説明いただきたい。

- ・生駒市幼稚園再編にかかる基本方針（案）第3章を澤辺こども園準備室長から説明【資料1】

小紫市長：最後に、全体的にご質問やご意見があればいただきたい。

吉尾委員：先ほど来年の3歳児の数を聞いて、生駒台18人は少ないと感じた。幼稚園として存続するのであれば、こども園により近いサービスを提供する必要があると思う。2歳入園なのか満3歳入園なのか、駐車場や給食はどうか等、生駒台に限らず各園で検討していただきたい。また、地域協働を幼稚園も小学校も力を入れて取り組んでいるので、卒園した子が通うことになる小学校区を意識しながら再編も検討していただきたい。

原井教育長：あすか野小学校の児童数について、5、6年生は5クラス、3、4年生は4クラス、1、2年生は3クラスとなっているので、幼稚園だけではなく、小学校も顕著に人数は減っている。

小紫市長：様々なニーズがある中で、こども誰でも通園制度が始まることもあり、公立の幼稚園としてどのようなサービスをどこまで実施していくべきかということとは非常に難しい議論であると思う。この会議の議論を受けて、教育委員会で引き続きご審議いただきたい。

○閉会宣告

午前10時40分 閉会